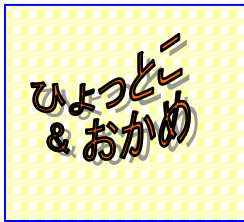


日本の金言・名句から



1. 和を以(も)って尊しとす。聖徳太子(しょうとくたいし)
2. 初心忘るべからず。世阿弥(ぜあみ)
3. 不自由を常と思えば不足なし。徳川家康(とくがわいえやす)
4. われ事において後悔(こうかい)せず。宮本武蔵(みやもとむさし)
5. 苦は楽の種、楽は苦の種と知るべし。徳川光圀(とくがわみつくに)
6. 知って行わざるは、知らざるに同じ。貝原益軒(かいばらえっけん)
7. 世に生を得るは事を為すにあり。坂本竜馬(さかもとりょうま)
8. 天災は忘れたころにやってくる。寺田寅彦(てらだとらひこ)
9. 元祖、女性は太陽であった。平塚らいちよう(ひらつからいちよう)
10. 我以外皆師 吉川英治(よしかわえいじ)



お笑い
ユーモア



天狗



1 たくさんの種類の「面」。神様から動物まで様々です。にっこり笑う面。邪悪なキツネの面。日本には数多くの面があります。こうした「面」が活躍する場が祭りです。古来、日本では多種多様な神様が信仰されて来ました。祭でも様々な神様が登場し、その神々を表現するために面が使われます。

江戸時代初期から続く祭で愉快地踊るのは、「ひょつとこ」、「火の神様」と言われ、曲がった口は火に息を吹きかけている様子を表しています。「**おかめ**」は、ふくよかな女性の神。この「**芸能の神**」は福をもたらすとされています。

2 面はそれを着けた人が演じるとき、豊かな表情をも持ち始めます。富をもたらす神様は大黒天で、やわらかい手の表情をつけると、面を生き生きさせます。日本の神々は、それぞれに独自の力を持つと考えられています。その為、祭では様々な神様の面を着けることで、人が神になり代わり幸せを分け与えるのです。

3 面が大きな役割を果たすもう一つの世界が「能」です。能は人の喜怒哀楽(きどあいらく)を舞で表現する芸能です。抑制されたわずかな動きで、心の微妙な動きを表現します。特に能面では、死者の邪悪な魂や超自然的な存在を表す、ある神秘的な雰囲気(かも)を醸(かも)し出しています。

能で用いられる様々な女面は、若い女性から恐ろしい山姥(やまんば)、清らかな天女など、20種類以上が作られて役割に応じて使い分けられます。↓いろいろな仮面の表情



表情豊かな能面を作り出すのは能面師です。色彩で一番難しいのは、奥深い、年を重ねた**趣(おもむき)**を出すために、3~4年寝かせた絵の具を使います。さらに墨やすずを使うなどして陰影をつけながら、1週間かけて何度も塗り重ねていきます。このような細かい技を重ね、面に魂を吹き込んでいきます。

このように、祭の面から芸能の面まで、日本の面は多種多様な表現を持っているのです。

舞台芸能以外でも、日本人は面や化粧で変身するのが好きかもしれません。そして自分の印象を変えて楽しんでいきます。その他、祭の出店では、子供たちにとってヒーローやアニメのキャラクターの面を売っています